

## 執筆要領

論文審査編集委員会

## ■ 原稿：

原稿は、本執筆要領に従って記述された日本語による原稿とする。完全版下 (camera ready) 原稿形式は廃止し、「和文フォーマット」に準じた体裁の原稿とする。

原稿には、必要事項 [原稿区分、標題、著者名・所属、キーワード] を記入した本学会所定の [投稿票] を添付する。投稿票および和文フォーマットは、学会ホームページよりダウンロードして用いる。論文投稿・査読システムを使用する場合は、投稿票不要。

## ■ 原稿の長さ：

「原著論文」は、標題、著者名、所属、要約、キーワード、図、表、参考文献、著者略歴などを含めて、刷り上り頁で10頁以内、「ノート」は4頁以内にまとめる。なお、提出する原稿には、必ず頁数を付す。

## ■ 原稿の割付：

ホームページに掲載された本学会所定の [割付用紙] に従って、[掲載区分、標題、著者名、所属、要約、キーワード] および本文、参考文献、注の割付を行う。

## ■ 標題：

標題は和文ならびに英文とする。特に、主題は簡潔に、一見して研究論文の内容がよくわかるように工夫して記す。また、「……に関する研究 (1)」などの研究の連続性を示す標題は主題とせず、副題にする。英文表題には、原則的に冠詞は付けない。

## ■ 著者名・所属：

著者名・所属は和文ならびに英文とする。

著者名は研究の直接担当者のみ限定し、謝辞のなかで挙げるのが適当と思われる研究者を著者扱いすることは避ける。

所属は、大学名・団体名のみとする。なお、以下の情報はタイトル下の所属に含めず、必要であれば、論文採択後に提出する“著者紹介”を利用する。また、J-Stage 規定との整合性を確保するため、所属は投稿者ひとりにつき一か所を原則とするが、一か所の追加を認める。以上の趣旨と異なる場合は、編集委員会裁量で所要の形式に修正する。

- ・学部・学科・部署の名称や、研究科専攻の紹介等
- ・教員または学生の区別
- ・論文執筆時以外の所属
- ・著者の肩書き
- ・Eメールアドレス

## ■ 要約：

要約 [Abstract] は英文とし、本学会所定の [割付用紙] に記載された指示事項に従い、150ワード以内で記述する。

要約 [Abstract] は、「原著論文」「ノート」のいずれに対しても、研究内容が的確に理解できるよう簡潔に記述し、十分な校閲を経たものとする。査読の段階で不備が指摘された場合は、Native Check を受けた要約 [Abstract] を提出する。

## ■ キーワード：

キーワード [Keywords] は英文とする。本文の内容を的確に表すキーワードを、三つ程度記す。

## ■ 標題等の割付：

本学会所定の和文フォーマットに準じて、[掲載区分、標題、著者名、所属、要約、キーワード] の割付を1段組みで行う。本文は2段組とする。

## ■ 本文、参考文献の割付：

- 1) 天地左右余白 (マージン)・段間余白 (コラムスペース) は、[割付用紙] の指定寸法に準ずる。
  - 2) 本文および参考文献に使用する書体は、本学会所定の [割付用紙] に記載された指示事項に準ずるようにし、横書き二段組とする。割付は、一段を27字×50行 (1350字詰め) とする (1頁計2700字詰め)。
  - 3) 文章は、当用漢字、現代かなづかい、ひらがなまじりを原則とする。
  - 4) 原則として、例えば、[緒言・序・はじめに、実験方法・調査方法、実験結果・調査結果、考察、要約・結語・結論・おわりに、謝辞、参考文献] などの区分を設けて記述する。
  - 5) 原稿には、大見出し・章、中見出し・節、小見出し・項などを設け、それらを明瞭に区分する。大見出し・章、中見出し・節が変わる時には、1行あける。なお、小見出し・項が変わっても、1行あけない。大見出し・章は、1., 2., 3., ……、中見出し・節は、1.1, 1.2, 1.3, …… の記号を用い、本文は改行する。小見出し・項は、(1) (2) (3) …… の記号を用い、改行せずに、1字あけて本文を続ける。さらに細分を要するときは、著者の分類に委ねる。
  - 6) 普通に用いられる外国語の術語はカタカナ表記とする (例えば、industrial design → インダストリアルデザイン)。ただし、カタカナ表記することによって字義が不明確になるおそれのあるものは、この限りではない。なお、欧字のまま記す必要がある場合には、例えば、Morris, idea のように、半角文字 (1コマ2文字) にする。
  - 7) 数字は原則として算用数字を用い、例えば、表1, 図2, 30cm, 7.2g, 1.08kg, 1,258, 5時間, 80円のように記す。また、英数字は、半角文字を用いる。
  - 8) 年号、月日は、原則として算用数字を用いる。また、年号は西暦による表記を原則とし、元号を併記する場合には、例えば、1963 (昭和38) 年のように記す。
  - 9) 句読点には、ピリオド (.), コンマ (,), 中点・ナカグロ (・), コロン (:) を用い、それぞれ全角にする。また、/ 「 」 『 』 ( ) { } < > 《 》 [ ] 【 】 など1コマに書く。
  - 10) 量記号、単位記号、符合は、国際的に慣用されているものを用いる。単位は、原則として SI 単位または CGS 単位を用い、記号で表示することが望ましい。必要ならば、JISZ 8203 を参照する。
  - 11) 文章中の式は2行にするのを避け、例えば、 $a/b, (a+b)/(c+d)$  のように記す。
  - 12) 文章中の元素名、化学物質名は、原則として、文部省編「学術用語集、化学編」の和名で記す。
  - 13) 混同しやすい文字や記号は、明瞭に区別できるようにする。1 (イチ) と I (エル), 0 (ゼロ) と O (オウ) などは特に注意する。
  - 14) 標題および本文に使用する kansei (英単語) は、Kansei に統一する。
- 図・表の割付：
- 1) 図・表の割付は、原稿2枚目 (刷り上がり2頁目) 以降から行う。
  - 2) 図・表は、印刷に十分耐えるものでなければならない。刷り上がり時の文字が小さすぎないように十二分に配慮し、線の太さにも注意する。
  - 3) 図・表の最大の大きさは、原則として刷り上がり1頁までとする。
  - 4) 図・表には、図1, 図2-1, 表1, 表2-2 のように通し番

号をつけ、標題および本文を併読しなくても理解できる程度の簡単な説明を付記する。

なお、標題ならびに簡単な説明は、図の場合には図の下に、表の場合には表の上に記す。

- 5) 特に必要でない限り、同一データを図と表とで重複させない。
- 6) 写真は図として扱う。刷り上がり時に不鮮明となる写真は使用しない。

#### ■ 参考文献，注の割付：

- 1) 参考文献は、通し番号とし、本文中の当該事項などの後に、[1]，[2,3]，[5-8] のように記す。作品などの参考文献でないものは「注」又は「脚注」とする。
- 2) 注は、通し番号とし、本文中の当該事項または人名などの後に、[注1]，[注13]，[注5-8] のように記す。文章の末尾に記す必要がある場合には、句読点の前に記す。
- 3) 参考文献及び注または脚注は、原則として、次のように記す。

雑誌の場合は、著者：標題，雑誌名，巻，号，頁，年の順に記す。例えば，

- [1] 日本太郎，青山由美子：シンボル・感性工学の日本の特性，感性工学研究，45，3，pp.57-60，1981。
- [2] Bohannon, P.: New Project for Industrial Design, Current Design, 5, 1966.

著書の場合は、著者：書名，発行所，頁，発行年の順に記す。

例えば，

- [5] 日本富士雄：図説感性工学の基礎，日本書房，pp.55-72，1971。

- [7] Leach, E.: Forms and Function, National Press, p.87, 1976.

翻訳本の場合には、著者，翻訳者：書名，発行所，頁，発行年の順に記す。例えば，

- [10] ベルグ，A.，田中一郎訳：サインとシンボル，世界感性工学出版，p.23，1957。

- [13] Murdock, G., M.B. Caffee, trans.: Stage of Design, Univ. Press, pp.67-68, 1978.

#### ■ 著者紹介：

掲載原稿の最後に著者紹介を掲載する。掲載決定後、150字程度の著者紹介文と顔写真（なるべくデジタル写真、あまり小さいものは画質が落ちるので好ましくない）を提出する。

#### ■ 本執筆要領の発効：

本執筆要領は、平成12年2月26日以降に受け付ける研究論文から施行する。なお、本要領の改正は、理事会の議を経て、論文審査委員会が行う。

平成12年2月26日制定。 平成14年9月12日一部改定  
平成17年1月22日一部改定 平成18年11月1日一部改定  
平成25年11月2日一部改定 平成26年3月15日一部改定  
令和2年1月10日一部改定